

分類1 通いの場に関すること

ケアマネジャーからの提案内容まとめ

地域に不足していると感じる資源や、市に必要なサービス・制度

デイを卒業後の行き先

気軽に外へ出て身体を動かしたり話ができる場所

町ごとに気軽に参加できるなるべく大きくないオープンスペース（健康体操やイベントができる）

コロナ禍でも集える場所。感染対策をしながら、サークル活動が行える場所

地域のカラオケの会に参加されていたが、コロナ禍の影響で行けなくなった。

松水苑へ通っていたがヘルニアで行けなくなった。自由参加の集いの場ではあるが、来なくなった人へのアセスメントがあれば。

一人では外出が難しいので、一緒に外出していただけるボランティアの方があれば、いろいろな企画に参加してもらえるのではないかと思います。

一人で出掛ける積極性に欠ける方に対し、意欲が出るまで付き添いを行う散歩ボランティア。

近くに通える場所はあるが、気持ち的に無理な方。同年代で誘い合っている仕組みがあれば素敵だなと思いました。

地域で夏季はラジオ体操をしているが冬季は休みになり活動量が減るため代わりにするものが必要。

デイサービスに通う前段階での人の集まりの場

外出や社会参加の意欲はあるが通える範囲に集う場がない。

高齢者がウォーキングや登山等の野外活動ができる団体やサークル

麻雀ならと言われたがご紹介出来る所がなかった。不活発状態が顕著であるが提案できる場所がない。

趣味活動

声かけの力で

地域で開かれている喫茶はあるが、下肢に不安があり参加できない。地域の民生委員さんからの声掛けはあるが…。曜日が固定されていると本人の気持ちがいそぐるので、気の乗ったときにいけるようなインフォーマルサービス

介護保険外でのリハビリを出来る所を知らない。あっても利用の仕方が分からない。送迎がないと無理な様子。

介護保険を使わない、運動やリハビリのアドバイスが受けられる施設

引っ越してから地域の活動に参加出来ていなかったため男性が参加しやすい行事の企画してほしい。地域の会館などで藤井寺音頭体操を教えてください。

介護保険以外でコミュニケーションを取れる場所

高齢者が活動できる憩いの場（カフェや独居高齢者への見守りサービス）。自治会館の活用があまりされていないと感じます。

公民館など近所で気軽に通える運動やおしゃべりの場が必要と感じた。

運動・体操

通いの場が必要！

自立しているが意欲低下で活動性が低くなっている場合、集いの場があっても参加につながらないので何かしらの声掛けやサポートがあればと感じました。

介護サービスを利用しなくても、皆で集まって体操できるような場所や取り組み

集会所には行けるので、本人が行ける範囲での定期的な運動の機会提供

好きなタイミングで行ける高齢者用のジム。リハ職が常について助言をもらえたい。

以前は町会で高齢者のお食事会があり楽しみにしていたが現在は行われていないのでまた再開してほしい。

高齢者が活動できる憩いの場（カフェや独居高齢者への見守りサービス）。自治会館の活用があまりされていないと感じます。

高齢者サロンのような食堂があって栄養士がいて、健康管理してくれる場所。

食事会・喫茶

近所の方の声かけや誘いがあれば今以上に活動性が高まると感じた。「一緒に歩ける仲間」「向こう三軒両隣」「ハティ」の制度化があればよい。

日頃から近隣の方との良好関係を築けるように、市としてそういう関係性を作りやすい環境設定の支援をして頂いて、さらに「つどう場」が増えていくことを期待しています。

耳の遠い夫と二人暮らしで、笑うこともそう思うとは思えないので、笑える場所があればと家族が言われていました。

参加意欲が湧くような歩いて行ける社会参加の場。

地域の中に夫婦で気軽に参加できるサロンがあると、男性も困り事を相談しやすいのではないかと思います。

地域の会館など身近な場所で、栄養士さんの専門的な食についての知識と一緒に料理もできて、参加者が一緒に楽しく食事をする機会があればと思います。

地域交流や情報交換のできる場。運動系や趣味活動の場を。必要とする利用者の近辺にないため、交通機関の充実。

自宅周辺の住民はあまり外に出ないので話をする機会も少なく、身近な集いの場があれば良い。

以前より耳の聞こえが悪くなり、テレビを見たりラジオを聴くのも聴きづらく、おしゃべりも楽しくなくなってきた。聞こえの悪い人でも、楽しく参加できる集いの場や企画がほしい。

本人がいつも気軽にいける地区の集いの場。（歩ける範囲に喫茶など。）

提案できる通いの場はあるが、移動の方法が利用できない。市の巡回バスはバス停までの移動ができず利用できない。乗り合いタクシーのようなものがあればと思います。

移動手段があれば

運動できる場所へ安易に行くための送迎手段（公共交通機関以外）。乗り合いタクシーのようなもの

情報発信をもっと

気軽に集える機会があるかないか、ある場合、住民に発信しているか。

知り合いもない場所に転入されたばかりで情報が不足

これまでであればシニールホールや公民館での活動を紹介し、利用につながるとニーズが解決すると思われたケースであるが、コロナ禍で何もない中で、どのように利用者の悪化防止を検討すればいいかの、支援者にも活動の方向性を提案してほしい。

コロナ禍で地域の活動が減少していることが要因で、高齢者の孤立が進んでいる。感染対策を行い集う場所を復活させる必要がある。

コロナ禍でも…

今まで週1回地域の体操教室に通っていたが、コロナを契機に閉鎖したことで運動の機会が減少した。

コロナ禍で活動が不足している現状で何か活用できることがほしい

趣味活動ができる場が近隣にあるとよい。松水苑を提案したが、近隣に市の循環バス（バス停の数とバスの本数が増える）と利用しやすくなる。

移動手段が確保されていないと、元気な人でも外に出る気にならないうと感じた。

ケアマネジャーからの提案内容まとめ

地域に不足していると感じる資源や、市に必要なサービス・制度

すぐに介護保険サービスに結び付けず、まず歩いていける範囲で運動して評価して、うまくいかなければデイサービスを利用するようなシステム。(一度利用開始するとなかなか頼って卒業できない。また、事業所にも指導が必要と思う。)

風呂掃除をするとき、滑ることに強い不安があるので、部分対応できる家事支援のシステムがあれば便利だと思った。例：配食サービス事業者が配達時に買い物を支援する。あるいは部分的掃除を支援する。

骨折して困った当初、ファーストアタックで即座に支援を地域で開始し、治癒と共に終了する介護保険外サービス(独居に限らず、自費(安価)で利用できるもの。)

住宅環境を整えれば介護サービスを使わず元気に暮らしている人だと感じた。認定非該当でも手すり工事一部補助等があれば介護サービス費を使用せずいきいき暮らせるのになと思った。

介護認定非該当でも利用できる運動施設(助言・指導を受けながら運動できる施設)

介護認定ができるまでのリハビリ施設の利用可能な制度

認定の有無に関わらず、一定基準を見直し、介護予防につながると思われる人には外出サービス(茨木市のような?)があれば、今回のケースは少し改善につながるのかなと思います。

事業対象者に対する支援(デイサービス)(通所Cのこと)

認定結果が出ればデイサービスの利用を希望されています。要支援の認定がおりると思われますが、認定がなくても利用できるデイサービス(自費)があればベターです。

通所Cはいいと思うが、他市では地域ケア会議をするために日程を待たされている。早く動かないと、今が大切なのに認定を待ったり会議を待ったりしている間に、本人の意欲もなくなったり悪くなっていくので、通所Cを作るなら、そういう手順は早くなるように作ってほしい。

ご本人は十分健康に対する意欲が高く、身体機能も維持できているため、介護保険の対象外と感じられた。ただ以前より体力低下を気にされており、再度の訪問を希望される。デイサービス等を希望されており、チケット制(自費)のデイ利用券等あればいいのかなと感じる。

こんな通所が欲しい

週に1回利用しているデイサービスが合っており家族よりも1日追加で利用してほしいとの希望が強かった。梅が園で地域活動は盛んだが日常的に利用できるものではなく実費を払っても利用回数を増やしたいとのこと。実費で利用できるデイサービスがあれば良い。(以前はあったが現在は対応してもらえない)

こんな保険外サービスが欲しい

食生活の改善にて悪化が防止できる症状の方が、介護保険など関係なく地域の保健サービスより個別指導が受けられる制度

退院後支援の強化

独居の方が介護サービス外の退院後の短期集中の見守りやサービス調整が出来るまでの支援があったら不安の軽減ができるのではないかと(本人様は友人が臨時支援してくれている)

退院後の具体的な運動方法を入院中に伝えることができていなかった。

地域クリティカルパス(というのでしょうか?)が、本人が在宅生活を再開して6ヶ月間等後追いついて連携できるような在宅支援との連携システムが必要。特に入院期間が短期化されているため、退院後様々な専門職による支援が必要なケースが増加していると思われる。

専門職の短時間、短期間の見守り訪問

専門職の関わりの強化

今回住改現地確認時にいきいきモニタリングを併用しましたが、生活動作を専門的に見ることができ、また不必要な改修も防ぎ将来に備えることができるところで、住改のときは療法士の同行もいいと思う。

退院後しばらく状態が安定するまでの保健師等の訪問で、精神的・肉体的サポートの支援活動等があればよいと感じました。

退院後のいきいき利用に関して、病院MSWや病院療法士、医師等との連携がとれる制度(病院といきいきのつながり)。今回本人は拒否されましたが、短期的提案がありました。もしつながったとき、病院リハとの連携をケアマネに任せられるのは重い。

丁寧な提言や指導が病院内でも受けられたら、退院後も間違った解釈で食生活を送ることもなかったかもしれない。退院をすれば終了という形ではなく、病院と地域間に資源不足や本人や家族にとっても介入していくための糸口になるように感じます。

連携強化をもっと

医療(医師)機関や保健所との連携(今回はケースワーカーとの連携で発見できたが指定難病なのでもっと早く保健所より介入があればよかったのではと思った)

病院で栄養補助薬を提供されているが、病院と連携を図ることができればもっと早く栄養指導が実施できるのではないかと考えた

医療と連携できる体制整備

整形外科疾患に関して「悪化の防止」「痛みの軽減」→「動作の改善」ができるよう、医師→リハビリ→福祉サービスの連携システム

生活困窮者に対する家電の支援(中古品でもOK)が必要。調理する際に必要な家電がなく、お弁当に頼られているため。

日常生活で重宝する補助具等の導入支援。ホームセンターやコープ等で購入できる仕組みがあれば、ケアマネが買いに走ることはなくなる。

その他こんな制度が欲しい

ショートもたまに使うが、介護者が病気で介護できない緊急時にすぐに受け入れて頂ける緊急受け入れショートステイがあればと思う。

一般的な福祉用具は地域に知られているが、自助具はあまり知られていないと感じた。適切な用具の使用が進めば、自立にもつながるのではと感じた。

その人の食生活に合わせて栄養補助食品をオーダーメイド出来るシステムがあれば良い。

1年前の段階で疾患に対しての理解を深められる何らかの手立てがあれば、呼吸機能の低下にはならなかった可能性がある。早期で介護保険の申請を行い、指導などを受けることが出来る手立てがあればよかった。

ケアマネジャーからの提案内容まとめ

地域に不足していると感じる資源や、市に必要なサービス・制度

道路整備

道路の舗装、歩行者の安全な道の確保

歩行器で買い物へ行くと、道がカタカタのため歩きにくいとよく耳にする

河川敷に雨風が防げてお喋りや休憩ができる場所（トイレ付スロープ付）がほしい。

道端の休憩場所（井戸端会議ではなく、歩行者用）

移動中の休憩場所

自宅～万代までの移動時に休憩が必要になっているが少し休憩する場所がないため買い物へ行く頻度が減ってしまっているようです。休憩できる椅子が移動中にあれば休憩しながら一人で買い物へ行けるとの本人さんからの希望あり。

移動に困る！

病院に行くための歩行がいちばん重要と感じておられる。しかし病院までの道路状態が悪いことや、途中で休憩する場所がない等、外出することへの不安材料がある。歩行者が安全に歩行できる道路整備をお願いしたい。

腰の圧迫骨折後、後遺症で自転車に乗ると段差などで腰に痛みがくるので自転車に乗れなくなった。そのため公共交通機関を利用されていますが駅まで遠く、移動が困難です。市内の循環バスの充実や乗り合いタクシーなど安い料金で利用できる移動手段があれば活動範囲が広がると思いました。

本人より市の循環バスを利用して「公共施設に行くためのバスです」と言われ乗車拒否されたように感じたとのこと。他の目的でも気軽に乗車出来る循環バスの必要性を感じる。

バスなど送迎

以前は自転車で外出できたが、今は自転車に乗れなくなったのでバスに乗らないと遠出はできない。市の循環バスを利用したいが、公共機関に用事のない人は乗らないでくださいと言われるので乗っていない。市の循環バスを利用しやすくしてほしい。

移動手段が乏しいことで、外出の機会が減っているためタクシーよりも安価に利用できるものがあれば外出楽しみを継続しながら生活を送れると考えます。

役割を

元気になった高齢者が活躍する場所として、登下校時の子どもの見守りについて欲しい。地区によって立ってくれている見守りの人数には差があって親は不安だし、毎日立って挨拶することで高齢者も役割ができて子どもの成長を見守っていく張り合いも生まれる。

家族の介護者（高齢）の休息も必要と感じた。

その他支援の必要性

認知症をお持ちの家族様への情報提供や交流会が、「土曜・日曜に開催されない・休みの日に開催して欲しい。」と意見を頂戴した。

ガン患者や家族が気軽に不安を話し合ったり相談したりできる患者会が必要と感じた。

（コロナが終息すれば）送迎付きで、認知症状を持つ方々が集まれる場所があればと考えます

高齢の妻が家事、介護を担っておりアセスメント上の支障は「なし」となる。本人のケアも大切だが介護者へのケアを今後充実させてほしい。

申請から結果が出るまでの対応が難しい

その他課題感

急ぎでサービスが必要なのに、認定出るのが遅いと苦情を言われました。

訪問介護事業所の空きが、とても少なくなっています

こんな窓口が欲しい

一般市民が気軽に相談できる福祉用具の窓口。

栄養のことについて気軽に相談できる窓口がまちにあればよい。

家の中にエレベータがあり、電化製品を購入して持ち帰ることが出来たが、設置する際に棚に持ち上げる必要があり、高齢者には難しいことがわかった。電気店では有料で設置するサービスがあるが、地域でちょっと困った時にお願ひできる窓口があればと思いました。

病院内にリハビリに対しての相談がしやすい窓口（本人が自主トレに自信が持てなかったため）

買い物に行くことは運動になってよいが時間がかかり過ぎるため疲労感が強い。複数個所の通院がある総合病院があれば1医療機関の受診で済む。

買い物に困る

買い物したいので近くまで移動販売があると嬉しい。

訪問販売（移動スーパーのようなもの）

買物や市役所への移動手段

柔軟に対応できる移動手段

近距離の柔軟な移動手段

移動支援となるサービス

梅が園は近隣にスーパーがなく、自転車に乗れないと日々の買い物に困る。移動スーパーなど買い物自立できる方法が欲しい。

ボランティア活動したいけど現場に行けない。移送サービスの支援があれば、活動性が上がると思われる。

移動手段が確保されていないと、元気な人でも外に出る気にならないと感じた。

高齢者向けの調理メニューの情報提供

栄養の知識を

病気になるしないと栄養指導を受けられないが、健康でいられるために食事のアドバイスが受けられるシステム。

地域で、気軽にお仲間と一緒に食事をしながら栄養の話聞くことが出来る場があるとういと思います。

ゴミ捨てが困難

藤井寺市にはふれあい収集というゴミ収集のサービスはあるが、要介護からの対象となるため、独居で体調不良の間だけでもゴミの回収をしてくれるサービスがあれば助かる。

大阪市にはふれあい収集という制度があります。玄関までゴミを取りに来て声をかけて安否確認を行います。この方に限らず独居の方にはいかも知れませんが、因みに分別もなして出せます。